

洋書輸入協会会報

VOL. 25
NO. 1

(通巻285号) 1991年 1 月

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

1991年 元旦



理事長 海老原熊雄

一昨年に引き続き昨年も変動の激しい一年でした。東欧諸国の民主化の進展、ソ連国内の政治的・経済的緊張と併せて、EC 統合への動き、東西ドイツの統一、サッチャー英首相体制の終焉などは世界が冷戦から平和へ、対立から共存へと大きく変わりつつあることが読めます。しかし他方ではイラクのクウェート侵攻に端を発した中東湾岸危機問題とそれに起因する石油問題が、世界経済に混迷と深刻な影響を与えるなど、秩序ある新しい国際

社会への道は未だ遠しの感があります。

国際経済の低迷と湾岸問題は金利の上昇による円、株価、債券のトリプル安など、我が国の経済も大きく揺れ動きました。我が業界も需要の冷え込みは依然好転せず、価格及びサービス競争は一昨年に比べ一段と厳しい状況にあります。大学・政府機関等の図書予算の伸び悩みから、書籍雑誌の値上がりはプラスどころか図書館サイドをしていますます会員各社への値引き要求を強めさせまし

新年の挨拶..... 1	新入会員のおしらせ..... 3	総代理店ご案内 6
理事会報告..... 2	おしらせ..... 3	東京の坂と橋と
海外ニュース..... 2	洋書輸入協会史(59)..... 4	文明開化(10) 7
年頭所感..... 3	海外ニュース..... 6	広 告 8

た。また、欧米各国からの日本への市場解放要求の声をバックに、外資系業者が低価格政策を掲げて日本のマーケットへの一層の浸透を計っており、そのあおりを受けて入札による低価格への圧力がますます強まってきております。

さて、先の日米構造協義で430兆円の公共投資10ヵ年計画が日米間で合意されましたことは、我が業界にとりましても歓迎すべきことだと思われまます。公共投資—社会資本の整備は90年代の日本経済にとって最大の課題の一つであるといわれます。また国民生活の面では、昨年12月に電通が発表した「1991年の生活大予言」にもありますように、91年は「消費やモノの豊かさだけでは得られない充足感をどう勝ち取るか真剣に考える年」、「実りある生活スタイルを選び、充実した生き方を追求する年」になるであろうと推測できます。高度経済成長の中でもすれば後回しになりがちであった真のゆとりとは、真の豊かさとはの声が出てきたのは、日本の社会が成熟してきたことを示していると考えられます。社会資本整備の一環として学校や図書館を初めとする教育・文化環境への行政投資も増大することを強く希望いたしております。またゆとりと豊かさの追求の中で書籍雑誌を含む各

種情報媒体が積極的に活用されるよう、マーケットに対する適切な宣伝活動を行うことが必要となります。国の政策及び投下資本の動向を見据え、それをいかにして我が業界のマーケットに取り込むか、消費者動向の変化に対応したマーケット戦略をどう展開するか、省力化と資本投下によりいかにして外資の提供するサービスと低価格に対抗できる経営体質をつくるか、これらの成否が我が業界の今後の行方を決めるのではないかと考えまます。

ご承知のように、本年は洋書輸入協会の創立50周年を迎える記念すべき年に当ります。同業19社でスタートした当協会が50年後の現在では会員数114社を数えるまでに発展して参りました。戦時下、終戦後、経済発展期、国際経済下の経済成熟期と幾多の変遷を経て今日に至っておりますが、経済の国際化が一層促進される中で、外資にも対抗できる競争力をもつ業界に脱皮できますよう会員各社の皆様と力を併せ共に前進したいと祈念しております。

年頭にあたりまして、所信の一端を述べ、ご挨拶いたします。

理事会報告

12月12日(水)

(一) 11月分収支計算・予算対比表

12月7日(水)にひらかれた総務委員会での検討にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 新年懇親会

11月29日(水)にひらかれた文化厚生委員会で、1月8日(火)、東京プリンスホテルで開催すること、及び協会の財政事情のきびしさを反映して会費値上げが決められたことが報告された。

(三) 入会申し込み(賛助会員)

バターワース出版社日本事務所、及び日本出版貿易(株)の紹介で、ハイネマンインターナショナル日本事務所(代表者 ヴォーン・ジョーンズ)から賛助会員に入会の申し込みがあり、これを了承した。

(四) 日本書籍出版協会ブックフェアの件

「'92東京ブックフェア」の海外出版社関係ゾーン展示についての協力を、社団法人 日本書籍出版協会に

申し入れたことが報告された。

(五) 事務局勤務規定の件

有給休暇・停年・退職金 etc についての規定がないため、他業界の状況をも参考にして勤務規定を作成することが提案され、これを了解した。

(六) その他

海外ニュース

「ピンター、グレイはフェイバー社に」

イギリスの劇作家 Harold Pinter と Simon Gray の全作品が、1991年1月1日からは Faber & Faber から出版されることになった。これまで両作家の作品はいずれもほとんどが Methuen 社から出版されていたが、Methuen が Octopus 社に買収されてからは Faber 社がその一部の版元となっていた。

(The Bookseller、12月7日号より)

—(株)紀伊屋書店提供—

年頭所感

前橋康弘

明けましておめでとうございます。

海外出版物輸入同業会が昭和16年3月誕生して今年で満50歳を迎えました。この半世紀の間、世の中は想像を絶するハイテクの進歩と繁栄を遂げ、洋書輸入業界も西洋学術文化の情報収集、提供に多大の貢献をし、東西文化交流の担い手として今日に至っております。

昨年12月の流通新聞によれば、「昭和61年秋より今日に至るまでの5年間は、戦後2番目に長い大型景気」と報じております。私はこの記事を見てがく然としました。此の年は急激な円高となり200円を割り、更に秋には155円になった年です。前年比70円以上の円高ドル安のため、大学図書館納入レートの改定を激しく迫られました。以後、外患内憂、外資参入のみならず、業界内摩擦で難問山積の状況にあります。

洋書輸入業者は、円高が進むほど逆に利益確保のためにマークアップ率を高く設定せざるを得ないのです。それでも売上高並びに経費を維持していくことは困難です。なぜなら、ソフト化による商品管理費、新刊案内カタログ作成費用、発注経費、輸入運送費、更にエアーカーゴによる輸入サービスなど諸々の費用がかかり、それは、日本の出版物を逆に海外で買う場合でも同様です。その様な実情を消費者に的確に説明する必要があるのではないかと思います。

いつの時代でも学術文化は永遠です。それを取扱う洋書輸入業者も永遠でなければなりません。

昨年の42回フランクフルトブックフェアで「日本年」の行事がありました。日本館の入館者は8万1千3百人でした。これは第一回1988年のイタリア館、第二回1989年のフランス館と比べて3倍の入館者で、予想を上まわる盛況でした。「源氏物語絵巻」、「百万塔陀羅尼」等、日本最古の印刷物が展示され、日本には「グーテンベルグより古い」印刷技術があったのかと、ヨーロッパの専門家等が驚嘆したそうです。

ところが、この「日本年」に対する日本政府の助成金が希望額の半分だったために、「日本年」の収支は赤字だったということです。経済大国といわれる日本の政府の文化に対する理解の実態がこれでは非常に残念というほかはありません。

「経済構造調整に関する世論調査」によれば、一人あたりのGNPでは、アメリカを抜いて世界最高水準に達したそうです。しかし、生活の「豊かさを」実感出来ない日本人が69%にものぼっているということは、まさに欧米諸国に比べて日本人の生活文化の欠乏の証明に外ならないと思います。

洋書輸入協会の50周年にあたり、共存共栄とは何か、共有の理念とは何か、いままさに問われております。業界の体質強化を計るためにも、文教予算の増加陳請をもつと積極的に行動すべきだと思います。強力なリーダーシップを切望いたします。

末筆ながら会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

(中央洋書株式会社代表取締役社長・理事)

新入会員のおしらせ

このたび下記の方が入会されました。

賛助会員

ハインマン インターナショナル 日本事務所

代表者 ヴォーン・ジョーンズ

〒101 東京都千代田区猿楽町1-2-1

新日貿ビル

Tel : (03) 3294-0791

Fax : (03) 3294-0792

おしらせ

次の通り就任通知がありました。

ロングマン・ペンギン・ジャパン株式会社

代表取締役 ジェレミー・オズボーン

〃 酒井 忠男

新任

退任

洋書輸入協会史 (59)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

62 米国、仏国、日本の外国向け郵便料値上げの件

62.1 米国 P.W.に郵便料金改訂の記事掲載される

昭和33 (1958) 年 7 月 21 日号と 28 日号の Publishers Weekly に、8 月 1 日から米国の海外向郵便料金が改定され、うち日本向けの Book Post は、 $33\frac{1}{3}\%$ 増額される旨の記事が出た。

同誌には、この値上げに対し、米国内書籍・雑誌の輸出 12 団体から、輸出上の影響を考慮し、公聴会の開催と共に、来年 1 月まで実施を延期するよう要望が出されていることも掲載されていた。そこで理事会としては、この 12 団体の行動を支持することを決め、この中の American Book Publishers Council 及び American Booksellers Assn. に対し、その旨を協会として出状することとした。(s 33.7.30 付 J B I A No.28, s 33.8.9 付 J B I A No.29)

62.2 米国大使館へ、米国国際郵便料金値上げに関し反対の陳情を行う

この値上げは、8 月 1 日からとあったが、その後すぐ第 1 種及び第 3 種 (書籍はこの中に含まれる) は 9 月 1 日からの延期されるとの P.W.の記事が出た。一方米国の McGraw-Hill 社からは、日本代表の稲垣氏経由で、洋書輸入協会からアメリカ大使館へ反対の意志表示をしたら効果的であろうとの提案が届いた。理事会としては、この案に同意の上で次のような事情を考慮しつつ陳情文 (英文) を作製した。

1. 普通でさえ米国の書籍・雑誌は高いのであるから、郵送料値上げによってこれ以上高くなるのは困る。
2. 米国の現行の国際郵便料金は、下記のように他国に比し決して安くない。

	First 2 oz	Add. 2 oz
USA	¥7.20 (2 cent)	¥7.20 (2 cent)
Britain	6.37	2.37
Germany	8.70	4.37
France	5.16	5.16

(注) oz は ounce (オンス)

この他、書籍・雑誌の典型的な数タイトルを取り上げ米・英を比較している。こうして出来た 8 月 20 日付の陳

情書を、8 月 22 日に、理事一同で米国大使館に持ち込んだ。そしてその様子を、同日付の J B I A No.38 で次のように会員へ知らせている。

記

米国の対外郵便料金改定中止

陳情の件

かねて報告の通り、米国よりの外国向 Book Post 及び Printed Matter 郵便料金の値上げは、9 月 1 日まで実施を延期されておりますが、他国の書籍に比べて割高な米国書の日本への輸入に及ぼす影響と、特に郵料の割合の大きい予約雑誌の大幅な値上りとなることを指摘し、別紙の通り米国在日大使 The Honorable Douglas MacArthur II 宛の陳情書を、理事一同にて本日米国大使館に商務官補 Mr. Oliver Bongard、並びに経済部二等書記官 Mr. Michael H Style を訪問、手交し事情を説明致しました。

いずれ、所定の手続の上、本国政府に送り善処する旨お約束されましたから、左様御了承下さい。(以上)

62.3 1959 年度米国雑誌新聞の予約価の取り扱い

米国大使館に申し入れを行う一方で、時既に次年度の米国雑誌新聞の予約価を建て、受注を始めなければならない時期となっていたが、この郵便料値上げの行く末がはっきりせず、各社とも予約価の建て方に困惑していた。

そこで協会としては、最少限の対策として、1959 年度の米国雑誌・新聞のカatalog 価格は、概算価とすることとし、各得意先に対し 9 月付で次のお願いを各社より提出することとした。

記

米国雑誌新聞に関してお願い

申し上げます。

今般米国の郵便料値上げに伴い、各発行所より海外向予約価が 1959 年度より相当値上げされる旨予告がありました。詳細は今後の公表を待たなければ判明致しませんが、確報を得るまで多少の日時を要しますので、この度は概算御予約価にて御用命賜わり、後日御精算申し上げます。何とぞ事情御賢察の上御協力賜わりたく御願ひ申し上げます。(以上)

そしてこれには、後日郵送料値上げの詳細が判明し次第検討の上御精算致しますという趣旨のことが附言されている。

62.4 協会の申し入れに対する米国側の対応と値上げ決定、及び解説

米国大使館より、9月1日に連絡があり、米国の国際郵便料の値上げは、1959年1月1日まで実施を延期し、その間調査研究の上決定するとの返事であった。

一方で McGraw 社を始め数社の米国出版社、学協会より、1959年度の自社の出版物については、政府決定の如何にかかわらず値上げをしないとの通知も到着した。

次は11月18日付で、米国大使館より洋書輸入協会宛、8月20日付で米国大使館へ提出した値上げ反対の陳情書に対する本国政府よりの通告が通知された。また国際郵便料値上げに関する米国郵政省の発表が、Publishers Weekly の11月17日号に掲載された。それによると、郵便料値上げは1959年1月1日からであり、値上げ幅は、First 2 oz については3 cent (従来は2 cent) となっているが、Additional 2 oz については1.5 cent となっている。

(注) 1 oz (ounce) は28.3495gramm

また昭和34(1959)年1月13日付JBIA No.56では、米国対外郵便料値上実施として、first 1 lb (pound) = $13\frac{1}{2}$ cent (旧 $12\frac{1}{2}$ cent) という表現で会員に知らせている。

(注) 1 lb は16 oz、453.592gramm

米国郵送料のことは良く分らないところが多いが、分らないなりに整理してみると、Printed Matter については、最初の2 ounce については1 cent 値上げしただけのようである。また従来 Book Post は1 lb (pound) 10cent とポンド毎の計算をしていたが、これが Printed Matter と同様にされている。即ち今後は1 lb が13.5cent になることになる。従って書籍は1 lb 以下の小さなものは、寧ろ従来よりも安くなっている。

ついでながら、Bulk Post Rate と Combine Post Rate は従来通りに据えおかれている。というのは Bulk Post Rate は International Postal Union の管轄下にあるので米国だけでは変更出来ない由。Combine Post Rate は従来通りであるが、Combine の際の組み合わせ方によ

ては若干の値上りがある。

International Parcel Post は、IPU の管轄下にはないので、アメリカの一存で値上げ出来るが、これについては既に必要分が設定されているので、今回は値上げをしなかったとのこと。

米国の国際郵便料値上げの経過は以上のようなものであるが、この間陳情した相手の米国大使館が10日前後で先ず返事を寄越し、更に11月にはこの件に関する本国政府の通告を連絡するなど、米国大使館、米国政府の対応にはさすがと思わせるものがあった。各国における日本大使館も、このような応待振りを見せて欲しいものである。

62.5 米国予約雑誌精算

米国の国際郵便料金の値上げ幅が未だはっきりしなかった8月末の時点で、62.3項で述べたように米国雑誌・新聞の1959年度の予約を、概算価とさせて頂き、後日精算する旨を各得意先へお願いしたが、昭和34(1959)年に入って米国出版各社の対応が逐次判明し、精算の段取りも各社においてつけることが出来るようになった。そこで次のようなサーキュラーを洋書輸入協会として作製し、4月付で各社よりお得意先に配布している。いわば、米国の国際郵便料値上げに伴う混乱の、我々の側の跡始末である。

記

米国雑誌新聞概算価の御精算
について

先般米国の雑誌新聞につきましては、概算予約価にて御用命頂きましたが、今般郵便料決定に伴い同封書の如く確定致しましたので、茲に御精算旁々御報告申し上げます。

尚、米国郵政当局の決定が非常に遅れましたので、版元の中には値上げを今後に持ち越した向きもございますから、併せてお含みおき戴ければ幸甚に存じます。(以上)

62.6 仏国の送料値上げ

フランスは昭和33(1958)年12月27日に、フランス・フランを17.55%切り下げる旨の発表をした。この件については別に取り上げるが、送料だけについて言うと、昭和34(1959)年2月10日付JBIA No.60でこの件に触れている。即ち、“Hachette”の Les Livres Nouveaux、1959

年1月9日号によれば、フランス・フランが17.55%切り下げられたので、外国向け送料を27%引き上げるとのこと。

これは差し引き4%程度の送料値上げを意味している。

62.7 日本の外国郵便料金値上げ

昭和34(1959)年3月10日付JBIA No.63、3月12日付No.65、3月25日付No.67によれば、外国宛郵便料が改正され、4月1日より実施される旨が会員に通知されている。

昭和33(1958)年から34(1959)年にかけては、郵送料値上げに振り廻された1年であった。(続く)

海外ニュース

「ヨーロッパ企業情報の新社」

スウェーデン最大の出版社Bonnierは、ドイツのHoppenstedt社とのジョイント・ベンチャーとして、オランダのハーレム市にHoppenstedt Bonnier Information NVという企業情報専門の出版社を設立した。この新社は、ヨーロッパ全域の企業情報を提供するヨーロッパ最大の出版社となることを目指しているとのことだが、EC統合によりボーダーレスとなり拡大する市場を狙っての両社の共同戦略であることは云うをまたない。

(The Bookseller、11月30日号他より)

「リゾーリがユニバーズを買収」

RCS Rizzoli Corporationは、ニューヨークの美術書、カレンダー、グラフィックの専門書出版社Universe Publishingを買収した。Universe社は昨年イギリスのMusterlinグループの傘下に入っていたが、同グループの経営不振により売りに出されていたものである。Universe社は、今後も現在のスタッフのままRizzoli International Publicationsの製作部門の一つとして別個の出版活動を続ける。イギリスのPhaidon Pressとの合版などのプロジェクトは今後も継続し、また、Universe社の出版物はこれまでどうりSt. Martin's Pressが配給元となるとのこと。

(PW、11月30日号他より)

「東欧への進出」

イギリスのMacmillan Publishersは、ハンガリーの教科書出版社Tonkonyvkiadoとの共同事業として、ブダペスト市にMagyar Macmillan Kftという新出版社を設立した。この新社は主として小学校から大学までの教科書と一般書を出版する予定で、当初は広い範囲の英語教材を、後にはハンガリー語で他の分野の教科なども出して行くとのこと。

プラハのCharles Universityは、アメリカのUniversity of Nebraska Pressの助けを借りて、アップル・コンピュータを使ったディスク・トップ出版に着手した。すでに機材はプラハに導入され、大学の出版部員は研修を開始している。両校間の共同出版や翻訳権の交換などの協同事業が今後予定されている。

アメリカのSimon & Schuster社は、ブダペストの私営の出版社Novotradeと翻訳や共同出版を含む広範な取引契約を結んだ。これにNovotradeは、Prentice-HallとSimon & Schusterの、コンピュータ科学、工学、経営学、経済学などの分野の教科書をふくむ英文出版物をハンガリー国内で販売・配給することになった。

アメリカのBantam Booksは、すでに、昨年からハンガリーで本を売っているが、この11月からチェコスロバキアの書店にも同社のペーパーバックの販売を開始した。教科書系以外の出版社では同社の進出ぶりが最もめざましいようである。

(The Bookseller、12月7日号より)

— 櫛紀伊国屋書店提供 —

総代理店ご案内

洋 販 (日本洋書販売配給・株)

Tel. (03) 3208-0181

代理店業務停止のおしらせ

A & C Black Ltd.

Constable & Co.

Scottish Academic Press Ltd.

Victor Gollancz Ltd.

Northcote House Publishers

Stanley Thornes (Publishers) Ltd.

吾妻橋と浅草の文明開化〔2〕 浅草公園と「十二階」物語

丸善・本の図書館 鈴木陽二

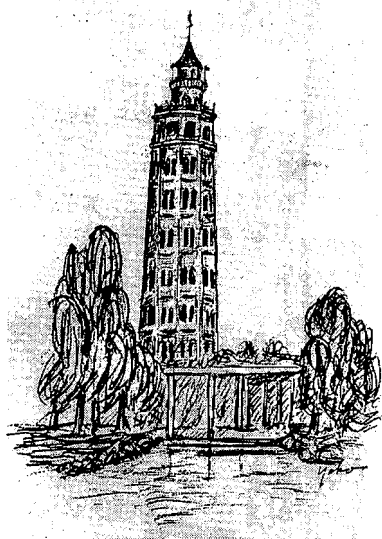
関東大震災で崩れ落ち工兵隊の爆破によって姿を消した浅草の凌雲閣、通称「十二階」は、帝国大学工科大学で衛生工学講座を受け持つお雇い外国人で、東京の上下水道の開設にも貢献のあったバルトン (W. K. Burton) の設計によって明治23年に建築された。外人の設計とはいうものの、この高層の塔は何ともあかぬけない外貌を東京市民の前に現した。しかしそれにもかかわらず、その姿は浅草に溶け込み、浅草の象徴として存在を誇示することになる。久保田万太郎は、どんな場所からであれその「十二階」という「頓驚」な塔を発見した時には「浅草」を発見した喜びを感じ、その塔は「浅草」にとって重要な存在であったと追憶している(『絵空事』)。浅草は誠に不思議な土地柄である。町民の町としての伝統的な環境や気風を最も色濃く残しているが、また同時に、新しいものを躊躇なく吸収して違和感を生じさせない、それが浅草の本来的な景物であったかのような、そういう巧みな同化作用をもっている。浅草は正に文明開化と伝統の庶民文化が渾然一体となった町である。

さて、西洋でいうところの公園は江戸時代は勿論なかったわけであるが、時代も明治となり欧化の流れの中でその設置が必要となってきた。政府は各府県に達達して公園の開設を指示したが、これを受けた東京府は明治6年に浅草寺、上野寛永寺、芝増上寺、深川富岡八幡宮、王子飛鳥山の5ヵ所を公園に指定した。ここに浅草はわが国最初の公園の一つとして正式に発足するのであるが、欧米風の公園は明治36年の日比谷公園の建設まで待たなければならない。この明治6年の指定は近代国家としての体裁を整える速成の施設であったのだろうか。ともあれ、公園となってからの浅草寺界隈は整備が進み、明治17年には火除け地であった浅草田圃の埋め立てが始まり、そこに瓢箪池と浅草6区が誕生して浅草公園は1区から7区迄の区割りが確定する。そして6区には娯楽施設が集中することになるが、中には高さ33メートルという人工の富士山や甲州の猿橋を模したという吊り橋(『風俗画報』)のような浅草らしい奇抜なものも出現する。この富士山は頂上まで登れるようになっていて大勢の人を集めたが台風で崩壊し、その跡にはパノラマ館が建てられ、

また近くに「十二階」も生まれる。

さて、再び「十二階」に戻ってみたい。この塔は八角形の煉瓦造りで(上2層は木造)高さが220尺(約67メートル)と当時の東京では一番の高層建造物であった。日本で初めてエレベーターが設備され(危険ということで翌年運転禁止となる)、最上階の十二階には望遠境がおかれて「八州の野を俯視」(明治23年『官報』)する見事な眺望であり、また各階は百貨や美術品などを売る店で占められて訪れる人々に賑わったという。ちなみに、落成の折には市内一円一流芸者100名が参加して日本最初の美人コンクールが開催され、この塔の評判をいやが上にも高めることになった。こういう「十二階」も明治27年には地震で痛んだために外側を金属の帯で締めて補強し、そして関東大震災で決定的に崩壊する。

ところで、「十二階」で思い出されるのが石川啄木のローマ字日記である。彼の日記はドナルド・キーンをして一番感動した明治の文学作品といわしめたもので(『続百代の過客』)、啄木の文学に対する挫折感と貧窮にあえぐ生活を残酷なまでに赤裸々に綴っている。十二階下周辺、銘酒屋と呼ばれた歓楽の街(啄木は塔下苑と称した)に吸い寄せられるように足を向ける彼の苦悩に痛んだ心情は、この日記を読む人を暗然たる思いに導く。その頃こういう歌が詠まれる。「浅草の凌雲閣にかけのぼり息がきれしに飛び下りかねき」。追い詰められた彼の悲劇的な境涯に慄然たる思いを禁じえない。



瓢箪池から見た「十二階」

韓国文化財保護協会編

韓国文化財大観 日本語版 全8巻

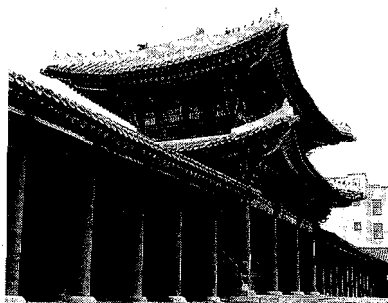
〈近日
発売予定〉

各巻約240ページ・ハードケース入・版型34.2×25.6cm

(注文番号 MSN:90S0721)

セット予約特価('91年7月31日まで) ¥138,000

(上記以降) ¥150,000 (消費税別)



企画・製作に5年余を費し、日本文化の源流ともいえる韓国に現存する1,081点に上る重要文化財を華麗なカラー図版、専門家による解説と貴重な学術資料により完全に網羅する初の全集(韓国文化広報部推薦、韓国出版文化賞受賞)の日本語版が遂に'90年末刊行の運びとなりました。

〈解説執筆校閲委員〉

金基雄 文化財専門委員
金東賢 文化財研究所 保存科学研究所室長
金正基 文化財研究所長
文明大 東国大教授・文化財委員
朴相国 文化財専門委員 林永周 文化財専門委員
任昌淳 泰東古典研究所長 鄭永鎬 教員大教授
秦弘燮 韓国精神文化院教授
許英桓 誠信女子大校博物館長 黃壽永 前東国大教授総長

〈図版撮影〉 金大壁/安章憲/韓哲弘

〈各巻内容〉

- | | | |
|-----|------------|------------------|
| 第1巻 | 国宝(1) | 木造建築、塔婆、仏像、石造物 |
| 第2巻 | 国宝(2) | 古墳遺物、磁器、工芸、書画・典籍 |
| 第3巻 | 宝物(1) 木造建築 | 一般建築、寺院建築 |
| 第4巻 | 宝物(2) | 塔婆 |
| 第5巻 | 宝物(3) 仏像 | 金銅仏、石仏、磨崖仏 |
| 第6巻 | 宝物(4) 石造物 | 浮屠、石碑、石燈・その他 |
| 第7巻 | 宝物(5) | 古墳遺物、先烈遺物、磁器、工芸 |
| 第8巻 | 宝物(6) | 書画、典籍 |



(大学堂(韓国) / 日本総代理店: 丸善)

日本総代理店
M 丸善

本社・日本橋店: [〒103] 東京都中央区日本橋 2-3-10 ☎(03)3272-7211 振替東京7-5番

支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町・アークヒルズ・渋谷・錦糸町・北千住・取手・土浦・浜松・船橋)・千葉・八王子・松本・大宮・所沢・新潟・札幌・仙台・弘前・盛岡・郡山・筑波・水戸・横濱・名古屋・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡・長崎・鹿児島・沖縄 / ニューヨーク・シカゴ・ロンドン

1991年1月 通巻第285号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎ 3271-6901 FAX.3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田 1-10-2 第一山中ビル

☎ 371-5329